

商品市況展望

平成 25 年 7 月 28 日記

先週号に続き、相場の基本のお勉強だ。

商品先物市場に参加するのに、100 万円の資金が妥当かどうかには疑問はあるものの（もっと多くないと、最近のボラでは足りないんじゃないかとも思うが）、まずはこの 100 万円で金先物取引をスタートすると仮定しよう。

現在の証拠金は 1 枚 = 1,000 g = 138,000 円であり、手数料を 1,000 円（一般的なネット取引の抜け幅の 1 円）で計算する。

仮に金が 4,200 円の時に 1 枚買い新規をしたとして、

現金 100 万円、建玉証拠金 138,000 円、取引可能額 861,000 円、出金可能額 861,000 円となる。

そこから 50 円上げて 4,250 円になった場合は、

現金 100 万円、建玉証拠金 138,000 円、取引可能額 911,000 円、出金可能額 861,000 円となる。

決済していない場合は、出金可能額が増えない会社がほとんどなはずだ。

だがその時点で利食いをしてしまえば、

現金 1,049,000 円、建玉証拠金 0 円、取引可能額 1,049,000 円、出金可能額 1,049,000 円となる。

めでたく利益が出ての終了である。

とにかく、買って上がっている分には、1 円上がれば手数料が抜け、50 円上がれば 5 万円、100 円上がれば 10 万円の儲けなのだから、まあ難しく考えることはない。

仮に当方が“買いだぞ！”とコメントした 3,800 円で 1 枚買い、今週出た 4,300 円まで我慢して売ったとしたならば、500 円 = 50 万円の儲けなのだから、現金は 150 万円に増加しているわけだ。めでたしめでたし、である。

これは最低の 1 枚の買いをした場合で、儲かるとなればもっと買いたいと思うのが人である。100 万円の現金の場合は、最大 7 枚分（証拠金 966,000 円）まで買える。500 円 × 7 枚 × 1,000 倍 = 350 万円の儲けである。現金は 450 万円に増えている。

ただし最大限の儲けはこれではなく、値洗いプラスを買い増ししたり、利食いをに入れて倍々ゲームで増やしたりすれば、138 円アップごとに倍買えるのだから、少なくとも 3 回は倍に出来る計算となる。

7 枚、14 枚、28 枚と枚数を増やし、最後に 200 円取りをしたとするならば、200 円 × 28 枚 × 1,000 倍 = 560 万円が儲け + 28 枚分の証拠金 386.4 万円 = 946.4 万円が現金の概算であり、まあ 1,000 万円くらいになるだろう。

世の中は広い。もしかしたらこのひと月の金先物取引で、100 万円を 1000 万円にした強者がどこかにいるかもしれない。

しかし断言する。こんなやり方で、儲けて終わるなんぞは不可能だ。競馬だって 12 レース全部当たったら、帰るまでに億万長者になるのは可能なのだが、そんな人は見た事も聞いた事もない。もしも倍々ゲームで 3 回連続当たっても、4 回目か、あるいは 5 回目にはすべてを無くすだ

ろう。当たり前の話だ。カネは持って帰ってナンボである。

また資金の目一杯を買った場合は、当たり前だがちょっと下がれば追証である。100万円の現金で7枚分買った場合は、

現金 100万円、建玉証拠金 966,000円、取引可能額 27,000円、出金可能額 27,000円が建てた時点の計算。1円下がると7,000円の値洗いマイナスが出るので、**4円下がったら出金可能額がマイナス 1,000円となるので、追証が 1,000円発生する。**

もしも100円も一発で下がれば70万円のマイナスなので、残金は30万円以下になる。追証を入れて我慢するとすれば、7枚分の建玉証拠金 966,000円までは最低しておかねばならぬため、683,000円の追証請求となる。

だがまた、そこから更に1円下がると7,000円ずつの追証が掛かる。入れられなくなったら取引は強制終了である。場合によっては、決済時に出金可能額がマイナスとなるケースもあり、そうなると取引終了時に負債が残る事となる。

金価格は決してゼロにはならぬが、もともとグラム 4,000円の金の総代金は 400万円。7枚の買いは2800万円分の買いなのだから、それが5%や10%下がるのはおかしくもない。

その2800万円の取引を、わずか100万円以下でやるというのだから、そりゃ妙味もあろうが、リスクも高いのは当然だ。

では“適正な枚数は幾らなのか？”“資金配分はどうすれば良いのか？”というのが次の問題になる。

相場には上がるか下がるかの2つだけゆえ、何百通りもある競馬よりは当たる。確率は2分の1だ。だが先週号でコメントしたとおり、競馬のようにレース1回1回で終わるわけではなく、レースの終了は（手仕舞い時期は）本人次第なので、買ってその日で終わるか、翌日に終わるか、1週間後に終わるか、数ヵ月後に終わるかは、自分が決める事。

相場で大きく勝つには、利を伸ばす事が何よりも大切と言われており、おそらくそれは正しい。正しいが、最近の相場は金融相場の側面が大きいいため、乗せなくなったところは利食い場だ。大体が抜けたところが天底になるため、この点は教科書通りではない。ご注意を。

さて重要なのは、1回のトレードごとのリスク配分である。それがストップロスの設定にも大きく関わる。通常は1~3%と言われるが、100万円の資金で金先物をやろうというのだから、5%までは引き上げないと勝負にならないか。つまり100万円ならば、5万円の損が1回のトレードの損の限定額だ。（ちょっと小さ過ぎるので、100万円では少ないかと初めに言ったわけだ）

1枚の建玉で5万円の損は、金の場合なら50円逆行したら掛かる。そこで切ってしまうと、5回連続損をしても25万円の損なのだから、75万円の残金でまだ勝負ができるだろう。

損が続いて、現金50万円まで減ったとしたら、通算で10敗以上しているわけで、こうなるともう“やり方がおかしい”わけだ。ここから5%ロスカット継続だと25円しか損出来ないわけで、これで利を出すのは大変。

50万円を追加できるまで働いてカネを貯め、相場の勉強もし直して、再チャレンジが良からう。続きはまた次週に…。

〔貴金属〕

○東京金日足

…削除済み…

今週の金の値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
7月22日	¥4,252	90	¥4,249	97
7月23日	¥4,269	17	¥4,265	16
7月24日	¥4,310	41	¥4,310	45
7月25日	¥4,248	-62	¥4,247	-63
7月26日	¥4,255	8	¥4,245	-2

金相場は、先週号においては『目標値に接近中。次はまた、売り狙いに大きく方針転換する時期が近づいていると見ている』とコメントした。

今週の相場展開は、**4,329円(7/25)**まで上昇。しかしその後は反落に転じ、週末の夜間取引でも**4,139円**まで一時下落し、円安調整とともに急激に下落に転じて来ている。

3,750円(6/28) → 4,329円(7/25)まで579円幅の上昇を演じてきた相場だったが、先週号でも「来週は3,750円の底値からの反騰も1ヶ月になるわけで、そろそろ失速の懸念も無いでは」とコメントしたとおり、週後半からは下落に転じて来ており、すでに**200円近い下げ**を記録している。

今週高値の4,329円は、三尊天井のネックラインである4,430円(5/20)の壁まで残すところ100円。もともとの戻りの限界値＝目標値とした4,450円辺りまでも、残り100円強のところまですでに600円近く上がった価格なわけで、ここからの上値期待と下落リスクを天秤に掛けた場合、買い妙味は全く無い状況であった。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥4,224	8月29日	¥5,873	2月7日	¥3,765	6月28日	¥4,256
2013年10月	¥4,404	10月29日	¥5,077	2月7日	¥3,761	6月28日	¥4,246
2013年12月	¥4,519	12月25日	¥5,081	2月7日	¥3,745	6月28日	¥4,244
2014年2月	¥4,759	2月26日	¥4,979	3月21日	¥3,751	6月28日	¥4,251
2014年4月	¥4,585	4月25日	¥4,760	5月10日	¥3,749	6月28日	¥4,247
2014年6月	¥4,031	6月26日	¥4,329	7月25日	¥3,750	6月28日	¥4,245

○NY金日足

…削除済み…

7/26のNY市場では、前日比7.3ドル安の1321.5ドルでの終了。高値は1340.5ドルまでであったが、安値も1311.9ドルまであり、上下の振幅が28.6ドル幅あった。

戻り高値は1348.7ドル(7/23)であるが、これはチャート上での上値抵抗線**1321.5ドル**は

クリアだが、次の 1350 ドル辺りの壁で止まった格好だ。

先週号まででも、「仮に 1400 ドルまで上がれば、為替を 100 円とした場合、 $1400 \text{ ドル} \times 100 \text{ 円} \div 31.1035 = 4,501 \text{ 円}$ となる」としたが、それが最大であって、この 1348.7 ドルが戻りいっぱいでも何の不思議もない。

というか、当方の相場観は、1348.7 ドルが戻りいっぱい、少なくとももう一度 1179.4 ドルの 2 番底を試しに行く。弱ければ戻りの倍返して、170 ドル戻しの倍の下げ、つまりは戻り高値から 340 ドルの下落で 1000 ドルそこそこまで下がると見ている。

それが現実となった場合は、為替を現状の 98 円で計算したとして、
 $\bigcirc 1000 \text{ ドル} \times 98 \text{ 円} \div 31.1035 = 3,150 \text{ 円}$ となるわけだ。東京市場 1,000 円幅の下げに、ほぼ一致する。

そこまで絶対あるという自信があるわけではないが、可能性としてはあってもおかしくないため、では買うのか？売るのか？と言え、今の価格なら売りたい、となるわけだ。

なお CFTC 発表の 7/23 現在のファンドのポジションは、…中略…

また 7/26 現在での ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、4,329 円で戻り高値を確認した可能性が大であろう。今後はまた戻り売りで、3 度目のクラッシュか、少なくとも 2 番底を探りにゆく展開になるのではないかと見る。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
7月22日	¥4,654	56	¥4,667	59
7月23日	¥4,622	-32	¥4,631	-36
7月24日	¥4,645	23	¥4,659	28
7月25日	¥4,639	-6	¥4,653	-6
7月26日	¥4,600	-39	¥4,613	-40

プラチナ相場は、先週号においては『4,600円台後半は買い玉の利食い場であろう。4,700円台は逆に売り場探しと見ており、方針の大転換の時期が接近していると見ている』とコメントした。

今週の相場展開は、4,743円(7/25)まで上昇。ついに4,700円台まで上昇したが、その後は反落して4,600円台前半での終了であり、夜間取引では4,480円の安値まで一時急落である。

4,125円(6/27)→4,743円(7/25)まで618円幅の戻りを演じた相場であるが、その高値からすでに260円超の下落を演じている。

4,700円台は25日のヒゲでしか記録しておらず、4,700円台は売り場とした相場観は大正解。おそらく今後は、戻り売りの相場となるのではあるまいか。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥3,860	8月29日	¥5,274	2月7日	¥3,807	8月31日	¥4,500
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥5,288	2月8日	¥3,933	10月30日	¥4,509
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥5,300	2月8日	¥4,122	6月27日	¥4,507
2014年2月	¥4,831	2月26日	¥5,052	3月12日	¥4,125	6月27日	¥4,515
2014年4月	¥4,622	4月25日	¥4,999	5月16日	¥4,109	6月27日	¥4,611
2014年6月	¥4,284	6月26日	¥4,743	7月25日	¥4,125	6月27日	¥4,613

○プラチナー金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,613円(プラチナ) - 4,245円(金) = 368円。

460円まで一時拡大したサヤは、100円ほど縮小である。…中略…

結論として当方の相場観は、4,743円で戻り高値を確認した可能性が大であろう。今後はまた戻り売りで、2番底を探りにゆく展開になると見る。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	9月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
7月22日	¥28,130	-150	¥26,450	-170
7月23日	¥28,010	-120	¥26,310	-140
7月24日	¥27,700	-310	¥26,160	-150
7月25日	¥27,740	40	¥26,070	-90
7月26日	¥26,450	-1290	¥25,580	-490

まずはコーンから…

先週号においては『戻り売り継続の相場であろう。大崩れするとしてもまだ先かもしれないが、逆に急騰することはほとんど考えられない状況となっている相場である』とコメントした。

今週の相場展開は、陰線で断続的に下落をした相場が **25,570円 (7/26)** まで下落。その後の夜間取引では、**25,400円**と更に値を消している。

このところ“戻り売り相場である”とコメントして来た相場であるが、ついに今週は底抜けした。年初来安値の更新で、4/4の**25,690円**を割り込んだわけであるから。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおりである。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥33,570	6月3日	¥25,510	10月1日	¥25,450
2013年11月	¥25,600	10月16日	¥28,910	5月30日	¥24,420	11月14日	¥25,140
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥28,600	6月3日	¥24,930	12月21日	¥25,350
2014年3月	¥27,290	2月18日	¥28,750	6月3日	¥25,460	7月26日	¥25,450
2014年5月	¥26,550	4月17日	¥28,970	6月3日	¥25,500	7月26日	¥25,510
2014年7月	¥26,600	6月17日	¥28,410	6月21日	¥25,570	7月26日	¥25,580

ひどいのは当限9月限の下落絵ある。あっという間に逆ザヤは解消であり、ここは旧穀とはいえ、もうちょっと待てば安いコーンが輸入できるという事が、このサヤの縮小に繋がったわけだろう。

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末7/26のシカゴ市場は、9月限で前日比**4.00セント**安の**492.00セント**。12月限では**2.75セント**安の**476.00セント**。

800セントまで駆け上がった7月限が納会し、9月限はサヤ寄せ出来ずに下落。むしろサヤを詰める展開となった。それもこれも、新穀の豊作人氣が徐々に高まっているからだ。

CFTC 発表の 7/23 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、一段安は利食いであろう。戻るとすればファンドのショートカバーだけであるが、それで戻りが出たらまた売れば良い。そういうニヒルな相場であろう。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
7月22日	¥59,220	-1280	¥54,600	-520
7月23日	¥57,710	-1510	¥54,390	-210
7月24日	¥55,710	-2000	¥53,860	-530
7月25日	¥53,150	-2560	¥53,790	-70
7月26日	¥51,240	-1910	¥51,870	-1920

続いて一般大豆です…

先週号においては『55,000円台は試し売しても良い水準だろう。本格的な下落は収穫が始まってからの事となるだろうが、上値は限定的なはずであり、56,340円は天井であろうとの見方を採っているゆえに』とコメントした。

今週の相場展開は、先週半ばから頭の重くなった相場が徐々に下落。そして週末は、一気に暴落の展開となって**51,870円での終了**。その後の夜間取引でも続落であり、**51,310円**の安値まで記録で、これは先物6月限の一代安値の更新である。

“55,000円は売り”との相場観は、大正解となった。天井だろうとした56,340円からの下落は4,000円超となり、チャートも一目均衡表の雲を一気に下抜けた。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥48,020	8月16日	¥64,900	5月16日	¥47,500	11月13日	¥51,240
2013年10月	¥47,220	10月16日	¥68,750	7月10日	¥46,920	10月16日	¥59,100
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥58,000	7月12日	¥48,450	1月9日	¥53,150
2014年2月	¥53,000	2月18日	¥56,000	7月17日	¥50,150	4月4日	¥52,610
2014年4月	¥50,910	4月17日	¥56,800	7月10日	¥49,850	5月2日	¥53,450
2014年6月	¥51,760	6月17日	¥56,340	7月10日	¥51,730	6月17日	¥51,870

まだ10月限は逆ザヤを維持しているが、当限は1万円ほど一気に下げてすでに先物よりも安い。如何に旧穀の需給は逼迫しているとはいえ、豊作の新穀が出回るのはそう先の事ではない。そうなれば、買い付けを多少我慢すれば済む話で、ましてやホルダーは一気に低価格でもさばこうと決意したのだろう。

10月限だってすでに高値から1万円近く下げているわけで、今年の高値相場は終了したという事だ。

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末7/26のシカゴ市場は、8月限で前日比5.50セント安の1349.75セント。11月限では4.50セント高の1228.50セント。

16ドル台まで上昇していた7月限が納会し、14ドル台で表示された8月限は、一度は15ドル台まで上がったものの、今週の暴落で13ドル台へ。新穀は12ドル台前半なのだから、**収穫が始まればこのチャートは12ドルを表示するようになるだろう。**

23日に相場が急落した主因は、…中略…

なおCFTC発表の7/23現在のファンドのポジションは、…中略…

このところコメントしているが、「世界需給では、**コーン在庫の16%台に対し、大豆は27%台と実は多い**」わけである。

下手にファンドの大豆買いの投げが遅れるようなら、コーンよりもひどい下げになっても驚かない。

結論として当方の相場観は、予想通りに崩れて来た相場であり、今年の高値は出尽くしただろう。今後も戻り売り継続の相場であり、下値のめどはまだ判断できない弱い相場であろう。

[ゴム]

○東京ゴム日足

…削除済み…

今週のゴムの値動き

	7月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
7月22日	249.0	3.5	256.2	4.6
7月23日	250.1	1.1	256.3	0.1
7月24日	251.0	0.9	257.1	0.8
7月25日	253.0	2	255.8	-1.3
	8月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
7月26日	245.2	-5.0	251.5	

先週号においては『250円台は売り狙いのポイントとなるだろう。しかし再度260円台に乗せた場合は、トレンドが転換する可能性がある。よってストップロスを入れながらの対処がベターであろう』とコメントした。

今週の相場展開は、反発に転じた相場が再度の260円台乗せを25日に果たしたが、その後はまた大きく下落。週末に発会した先物は251円台までの下落であり、12月限は250.3円での終了だ。

またその後の夜間取引では、先物248円台、一本手前で247円台の安値も記録であり、262.0円(7/19)は天井だったのかな?という様相。

基本的にはずっと戻り売りだと思っている相場なのだが(中国・インドの経済も悪いため)、上がり始めると逆三尊底を形成してゆくため、やはり危険と踏まされてしまう。

もちろん相場なのだから、踏まされたり、投げさせられたり、損切りが出るのも当然なのであるが、わかりにくい相場はやはり仕掛けるのは難しくなる。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年7月	316.3	1月28日	337.8	2月6日	222.2	6月21日	253.0
2013年8月	301.0	2月25日	302.1	2月25日	222.6	6月25日	245.2
2013年9月	279.5	3月26日	297.7	5月13日	221.9	6月25日	245.7
2013年10月	253.7	4月24日	299.0	5月13日	222.3	6月25日	247.6
2013年11月	267.7	5月28日	274.8	5月29日	223.9	6月25日	249.0
2013年12月	231.0	6月25日	262.0	7月19日	225.5	6月25日	250.3
2014年1月	257.0	7月26日	258.9	7月26日	251.4	7月26日	251.5

当先のサヤは、8月限245.2円～1月限251.5円と**6.3円の順ザヤ**。順ザヤ幅に変化はない。しかし7月限納会は、逆ザヤで253.0円での終了。大したサヤではないため逆ザヤ納会の要因は調べていないが、少なくとも需給によるものではなさそう。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、7/10 現在で 301 トン減の 11,284 トン。7 旬連続の減少であるが、少ないわけではない。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、17 日からの急騰で 18,000 元台でのみみ合い。チャートでは、18,000 元を維持できるかどうか注目だ。

結論として当方の相場観は、(当方のように) 戻り売り相場と見る向きと、押し目買い相場だと見る向きの、綱引き相場が継続中。こういう場合は放れた方向に大きく動きそうだが、さてどちらに放れるか？

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

まずは原油から…

先週においては『NY 原油は青天井のパターンにすでに入っている。それに比べて東京市場は、上場商品が中東産原油なので上げ遅れており、相対力指数でも過熱感はない。よって東京も押し目買い一貫の展開であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、NY 原油は先週末の 109.32 ドル (7/19) をピークに反落。104 ドル台まで下げ、週末 7/26 は前日比 0.79 ドル安の 104.70 ドルでの終了。安値は 103.90 ドルまでであった。国内換算では円高でもあるため、620 円安となっている。

このところずっと、「チャートでは、この半年間続いてきた 85 ドル～98 ドルの相場を完全に上放れしてきた事となる。…中略…単純にもみ合い倍返しなら 111 ドル台まで上昇する事となる。また直近の 99 ドル→92 ドルまでの押しの倍返しなら、106 ドルが目標の相場になる」として来た。

相場はそれで止まらなかったため、先週号では「さて 111 ドルまであるかどうか？」とした。しかしその途端に反落であり、どうやら目先天井を打ったようだ。

…中略…

現状ではまだそこまで考えるほどでもないし、考えるべきでもなからうが、105 ドルを大きく割り込んで来たチャートは、W トップを形成したような格好になっている。チャートでは売りであり、押し目の目標は 99～101 ドル台辺りという事になる。

戻しても 105～107 ドル辺りで止まるようなら、W トップが三尊天井へと変化するだけの姿かもしれない。相場観は 180 度転換の、売り方針に変化である。

なお週末のロンドンブレントは…中略…

また 7/23 現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

今週の東京原油の動き

	7月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
7月22日	¥65,240	0	¥64,310	-250
7月23日	¥65,200	-40	¥63,780	-530
7月24日	¥65,230	30	¥63,990	210
7月25日	¥65,150	-80	¥63,350	-640
7月26日	¥65,040	-110	¥63,050	-290

東京原油も、先週末に記録した 65,220 円 (7/19) から反落に転じ、週末には 62,920 円の安値まで記録。その後の夜間取引でも 62,160 円の安値まで記録している。

先週号では「チャートではついに 5/20 の高値 65,000 円も抜いたわけで、次のターゲットは 66,460 円である」としたわけだが、逆に高値から 3,000 円以上の反落となり、なおかつチャート

線形がWトップを示唆するような格好となっているわけで、これはもう相場観をまた転換せざるを得ない。

夜間取引の安値である 62,000 円どころで止まれば良し。止まって戻れば、63,000 円台の半ば～64,000 円台は売り。止まらぬ場合は 6 万円割れまで下がるのが先、という事になるだろう。

おそらく東京原油の動向は、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 7 月	¥62,910	2 月 1 日	¥66,460	2 月 13 日	¥57,780	4 月 18 日	¥65,040
2013 年 8 月	¥60,560	3 月 1 日	¥66,480	7 月 19 日	¥57,360	4 月 16 日	¥64,620
2013 年 9 月	¥62,370	4 月 1 日	¥66,180	7 月 19 日	¥57,370	4 月 18 日	¥64,180
2013 年 10 月	¥59,500	5 月 1 日	¥65,840	7 月 19 日	¥57,510	5 月 2 日	¥63,790
2013 年 11 月	¥60,370	6 月 3 日	¥65,530	7 月 19 日	¥58,040	6 月 14 日	¥63,450
2013 年 12 月	¥60,580	7 月 1 日	¥65,220	7 月 19 日	¥60,210	7 月 1 日	¥63,060

結論として当方の相場観は、結果的に 65,000 円台で目先天井を付けてしまったか。NY 原油の 100 ドル前後までの押しは既定路線に思えるため、東京原油もその時点までは調整安を先にする可能性が高いだろう。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	8月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
7月22日	¥79,190	-270	¥76,000	-290
7月23日	¥78,700	-490	¥75,400	-600
7月24日	¥80,020	1320	¥75,820	420
7月25日	¥80,800	780	¥74,900	-920
	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
7月26日	¥78,030	-630	¥74,130	

続いてガソリンです…

先週号においては『押し目買い一貫の展開で、まずは79,000円台へ。そして8万円相場を目指すだろう。最大で83,000円台まで上がっても驚かない』とコメントした。

今週の相場展開は、先週末の高値76,940円(7/19)から反落に転じた相場が、週末には74,030円まで下落。その後の夜間取引も続落で、安値では73,230円まで記録である。

先週号までかなり強気の相場観であったのだが、チャートは週末の下げでWトップを形成。当方は道中で、買い玉を投げてしまった。大天井がどうかはわからぬが、目先天井は打ってしまったとの判断ゆえに。

相場は76,940円→73,230円まで3,710円の下落中。75,000円割れで投げてしまった当方だが、おかしいと思った時は投げないと、相場はどこまで下がるか判らない。72,000円～73,000円辺りはまた買い場かもしれないが、その時はまたその時の判断である。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥76,550	1月28日	¥82,250	2月13日	¥69,600	4月16日	¥80,800
2013年9月	¥78,930	2月26日	¥79,590	3月12日	¥69,050	4月18日	¥78,030
2013年10月	¥74,630	3月26日	¥78,090	7月19日	¥68,150	4月18日	¥75,980
2013年11月	¥72,990	4月26日	¥77,590	7月19日	¥68,030	5月2日	¥74,930
2013年12月	¥71,760	5月27日	¥77,190	7月19日	¥69,450	6月14日	¥74,400
2014年1月	¥70,660	6月26日	¥76,940	7月19日	¥69,520	6月27日	¥74,150
2014年2月	¥75,050	7月26日	¥75,110	7月26日	¥74,030	7月26日	¥74,130

8月限は8万円台での納会であり、これでも逆に25日に相場が反落したので投げたわけだ。ただし逆ザヤでもあることだし、7万円割れは各限月とも底値なのだから、やはり押し目買い相場なのかもしれない。

7/26 現在の業者間転売価格は、…中略…

7/20 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、チャートはWトップの形成から目先の天井打ちを示唆。どこまで下がるかは誰にも判らないのだから、買い玉は一度手仕舞いするか、両建てでの対処が良いだろう。しかし基本的には買い相場だと考えているため、底入れ確認を待っての再度の買い方針である。

○東京灯油日足

…削除済み…

今週の灯油の値動き

	8月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
7月22日	¥77,400	-110	¥78,630	-190
7月23日	¥77,020	-380	¥78,030	-600
7月24日	¥76,860	-160	¥78,330	300
7月25日	¥76,350	-510	¥77,620	-710
	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
7月26日	¥76,020	-370	¥77,270	

最後に灯油です…

先週号においては『77,080 円にストップロスを置いて、押し目買い一貫の相場であろう。まずは8万円台回復を目指し、次に82,000円台クリアを目指す相場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、先週末の高値79,610円(7/19)から反落に転じた相場が、週末まで下落。既存の先物では77,160円、発会した2月限では77,110円の安値まで記録である。

その後の夜間取引では、それぞれ76,530円、76,400円の安値まで記録している状況であり、ストップロスのヒットとともに、Wトップ完成の相場となっている。

「最大で86,640円までの上昇があっても驚かぬ」という強気の相場観で来たわけだが、相場は原油安と円高でWトップを形成。…中略…

チャートでは77,080円→79,610円までの上げ幅2,530円の倍返しの下げなら、ズバリ74,550円が目標値。それは一目均衡表の雲にくっつく辺りであり、まずは順当なところはそれだろう。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥74,200	1月28日	¥82,030	2月12日	¥67,720	4月18日	¥76,350
2013年9月	¥76,550	2月26日	¥78,380	7月19日	¥68,340	4月18日	¥76,020
2013年10月	¥74,090	3月26日	¥78,510	7月19日	¥69,000	4月18日	¥76,310
2013年11月	¥75,350	4月26日	¥79,010	7月19日	¥69,850	5月2日	¥76,850
2013年12月	¥74,610	5月27日	¥79,550	7月19日	¥71,580	6月14日	¥77,300
2014年1月	¥73,900	6月26日	¥79,610	7月19日	¥72,650	6月27日	¥77,310
2014年2月	¥78,000	7月26日	¥78,200	7月26日	¥77,110	7月26日	¥77,270

ガソリンの逆ザヤと違い、季節習性で灯油が順ザヤになるのも妥当。当先1,000円しかプレミアムのない状態は、先物はまだ割安だろうと見ている。

7/26 現在の業者間転売価格は、…中略…

7/20 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、Wトップの完成でストップロスに引っかかったため、現在は中立状態である。下値の目処は74,000円台と見るが、底入れの確認を待って、また買い参入が良いだろう。

[為替・株式]

○ドル/円相場日足

…削除済み…

自民党が大勝した参院選挙前後に 100 円台まで円安になった相場だったが、いわゆる材料出尽くしの格好で 98 円台まで円高に。週末の NY 市場でも一時 97 円台に突入するなど、調整局面に入っている。

来週の FOMC 次第ではあろうが、ちょっときつめの円高調整局面にまた入ったのではあるまいか？ **当方は、もう一度 93 円台辺りまでの調整があっても不思議ではないと考える。**

なお来週の主な予定は、…中略…

○日経 225 日足

…削除済み…

当方は安倍政権の外交政策に期待している。経済政策にも期待しているが、参院選後は材料出尽くしで日経平均の頭は重くなり、週末は大きく下落した。14,130 円での終わりであり、その後の CME 日経平均先物は 13,955 円での終了と 14,000 円台を割り込んでいる。

…中略…

○NY ダウ日足

…削除済み…

週末の NY ダウは、15,558 ドルでの終了と下げしていない。現状では、世界中の株式市場の中で一番強いのが米国市場という事になる。

そして一番悪いのは、言わずと知れた中韓の市場である。…中略…

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com